

R4.4.7 (木) 開校式 校長あいさつ

今ここに集いし129名の2・3年生のみなさん、進級おめでとう。校庭に咲く満開の桜の下、ついにみんなさんの手で新しい中学校の歴史の扉を開ける瞬間がやってきました。これから数十年間続くであろう、この松井田中学校の開校の瞬間に立ち会うことができるのは、世界中で皆さんだけです。まずはみんなさんの新しい母校となる松井田中学校の開校、そして一緒に立ち会うことのできた仲間との出会いをみなさんと一緒に喜びたいと思います。

さて、ここにいる多くの生徒にとって、まさか自分たちが中学校統合の当事者になるなんて、かつて誰が想像したでしょうか。期待よりも不安で胸がいっぱいだったのではないかと思います。合同の修学旅行や交流学習の実施、自転車やスクール・バスでの登校の練習など、準備はしてきたつもりですが、不安をぬぐい切れなかった生徒もいたことでしょう。しかし、みなさんは、学校統合によって互いに切磋琢磨できる多くの仲間を得ることができました。そして、大きな集団のパワーを手にすることができました。このことにより、これまで以上に自分自身を高め成長させることができる環境を得ることができたのではないかと思います。授業では、より多くの考え方につれて触れることができ、より充実した交流により深い学びへと発展させることができます。部活動では、これまで近隣の大規模校に気持ちで押される場面もあったと思いますが、これからは市内第三の勢力として、運動に演奏に作品に、これまで以上に堂々としたパフォーマンスを発揮できるのではないかと期待しています。その象徴として、昨年秋の新人大会で女子バレーボール部の合同チームが、安中市大会を制したことは、生徒のみなさんに自分たちの大きな可能性を予感させてくれました。

いつかみんなさんが大人になった時、家族や友人に「あの松井田中学校は、私たちが中学生の時に開校した学校なんだよ。」と笑顔で語り合えるように、自分自身に誇れる学校をつくっていきましょう。私たちは、この母校に対する誇りをこれからは「松中プライド(M.PRIDE)」と呼ぶことにします。学校統合で得た新しい可能性を、自分自身のエネルギーとして、前を向き悔いのない充実した中学校生活を送ってください。

昨年度末には、生徒会本部役員を中心に、みんなさんの手によって新しい校章も決まりました。3年生が考えてくれたこの校章には、上毛三山と松の木をイメージしたデザインが模られ、故郷の素晴らしい環境と温もりに見守られ、本校生徒が未来に向かって力強く羽ばたいてほしいという願いが込められています。本校の保護者や他校の教職員からは、新しい学校にふさわしいすばらしい校章であると、みんなさんの未来を重ね合わせながら温かい声をかけていただく場面がたくさんありました。学校生活を送っている間には、思い通りにならないこともあります。しかし、それはみんなさんが力強く未来に羽ばたくための成長の糧となるはずです。本校だけに留まらず、全国や世界を相手にする大きな視野をもって、いま胸に抱いている「夢」や「希望」の実現を目指して、力強く歩み続けてください。

また、先生方の意見や保護者との話し合いを経て本校の校歌も決まりました。この校歌は、妙義山、碓氷川、碓氷峠と、私たちの故郷松井田町を広く代表する四季折々の美しい自然をモチーフに、みんなさんが学校生活で活躍する姿を映し出したものです。作詞家は富岡市出身の著名な詩人、鈴木比呂志先生、作曲は昭和の偉大な作曲家、群馬県の歌も作曲した服部良一先生です。服部先生のお孫さんも音楽家で、「倍返しだ！」でおなじみの某テレビドラマのテーマを作曲するなど、多方面で活躍されています。お二人ともすでに他界されていますが、その遺志を継いでいる方からは、「松井田中学校開校にあたり、「ぜひ大切に歌い継いでください。故人もきっと喜んでくれていると思います。」とのお言葉をいただいています。これから入学式を迎える1年生とともに、松中プライドをもってみんなさんの母校に美しい歌声を響かせてほしいと思います。

時は来ました。みんなさんが新しい一步を踏み出す時です。私たち教職員はここにいる生徒のみなさん一人一人のことをまだよく知りません。だから、自分自身を変えるチャンスでもあるのです。希望に満ちた新しいみなさんの姿を私たちに見せてください。母校に誇りをもって前進するたくましいみなさんの姿を見せてください。私たち教職員は、頑張るみなさんの姿を全力で応援します。

みんなさんが、これからも大きな夢を育み、友達との絆を深め、たくさんの思い出をつくり、それぞれの輝かしい未来に向かって力強く羽ばたいていくことができるよう期待して、開校にあたっての挨拶といたします。